「ポスドクから見た現状認識」　　国立環境研究所　安中さやか

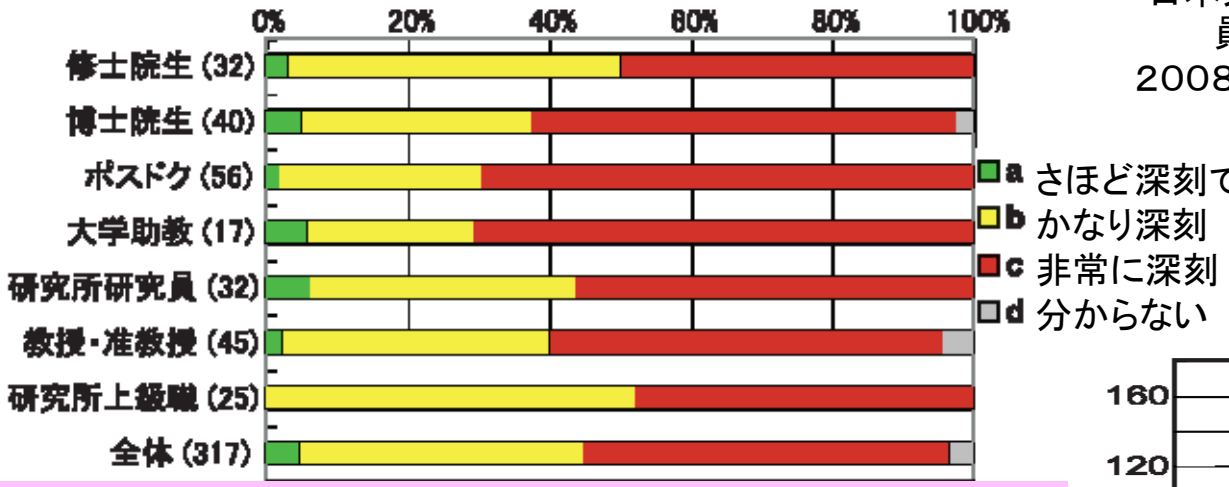
＜ポスドク問題に関する調査＞

2007 年8 ～11 月
男女共同参画学協会連絡会（文部科学省委託）
科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査
14,110 名（男73.3%、女性26.7%；大学・研究機関・企業等に所属する研究・技術者）

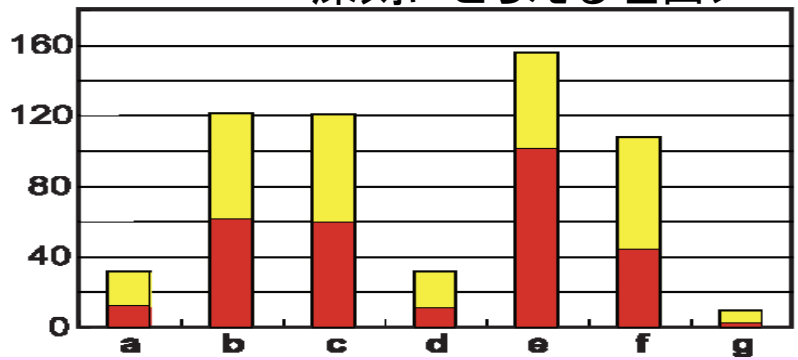
2008年3月
日本気象学会・日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会（IAMAS）小委員会
若手研究者に対するアンケート調査
317名（学生から大学教授、非研究職まで幅広い回答者）

＜現在のポスドク研究員の急増をどうとらえるか＞

中村ら（2009）
日本気象学会・日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会（IAMAS）小委員会
2008年「若手研究者に対するアンケート調査」



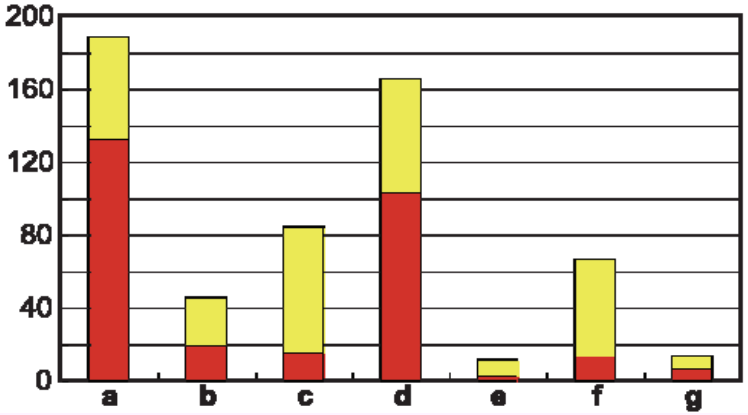
＜ポスドク急増を深刻にとらえる理由＞



a 将来の研究者を夢見る学部生や修士課程の院生がこの分野に魅力を感じなくなる
b 常勤職に就けないため経済的・社会的に安定せず，家庭や子供が持てない
c ポスドクの待遇が悪くて研究に専念できず，成果が挙げられない
d 常勤の研究・教育職に就く見込みの薄いままポスドクを繰返す若手の士気が低下
e 目先の成果を求める研究が求められ，若手が将来への実力を蓄えられない
f トップダウンのプロジェクトで若手が自主性を発揮する機会が奪われ，若手の才能が開花せず
g その他

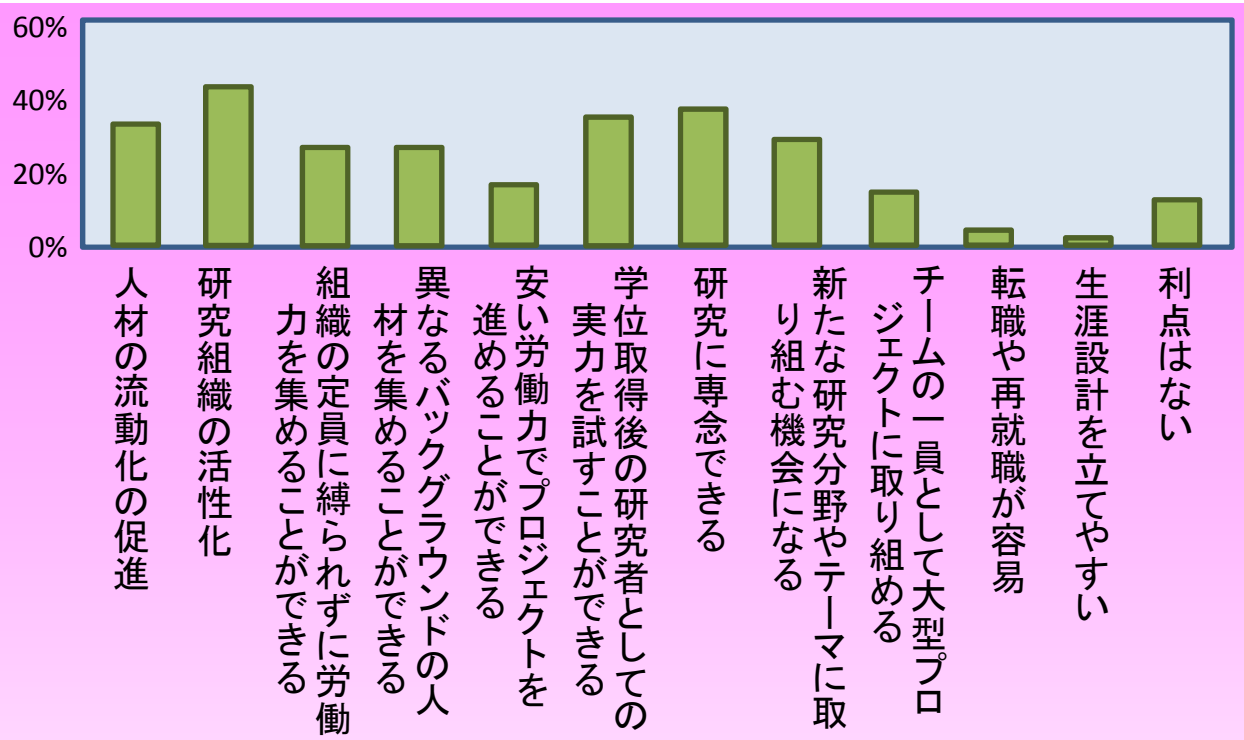
＜ポスドク問題を深刻化させた要因＞

次に重要な理由
最も重要な理由

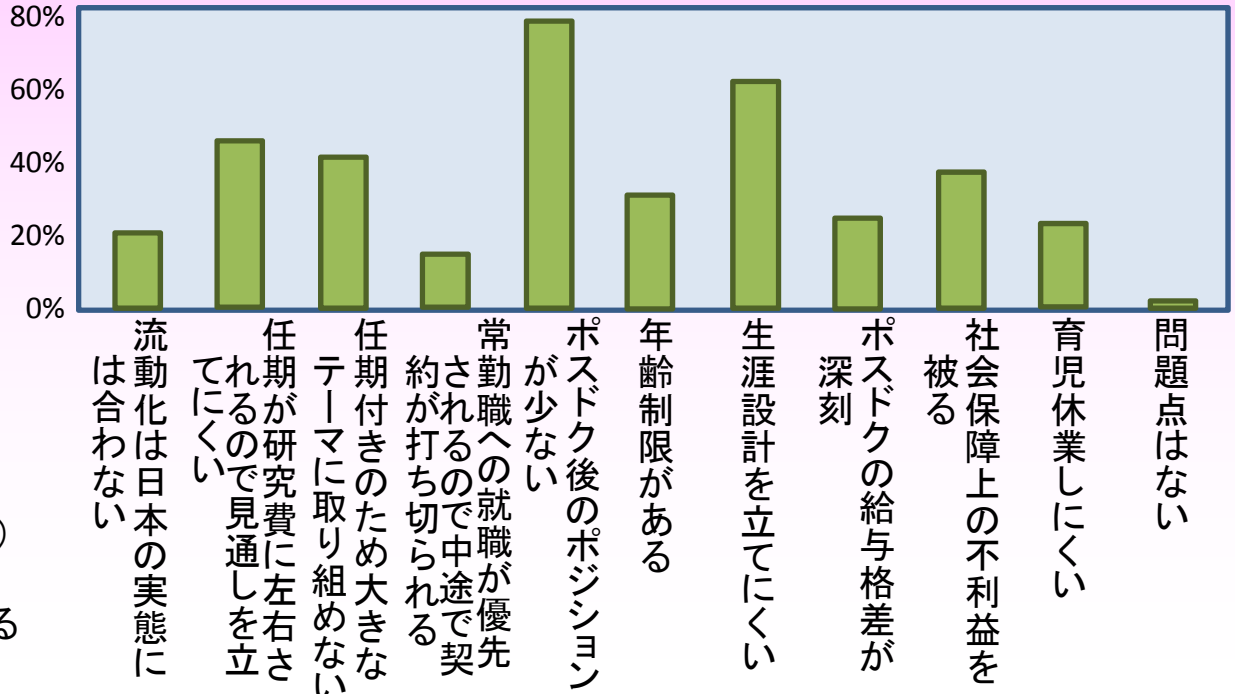


a 学界の指導的立場の人々の状況認識の甘さや対策の遅延
b 分野の拡大の急激さ
c 大学・研究所の常勤ポストの少なさ
d 民間企業が博士号取得者を採用しない
e 研究への競争的資金の過剰な導入や予算の大型化
f 政府の「ポスドク1万人計画」の見通しの甘さ
g その他

＜ポスドク制度の利点＞



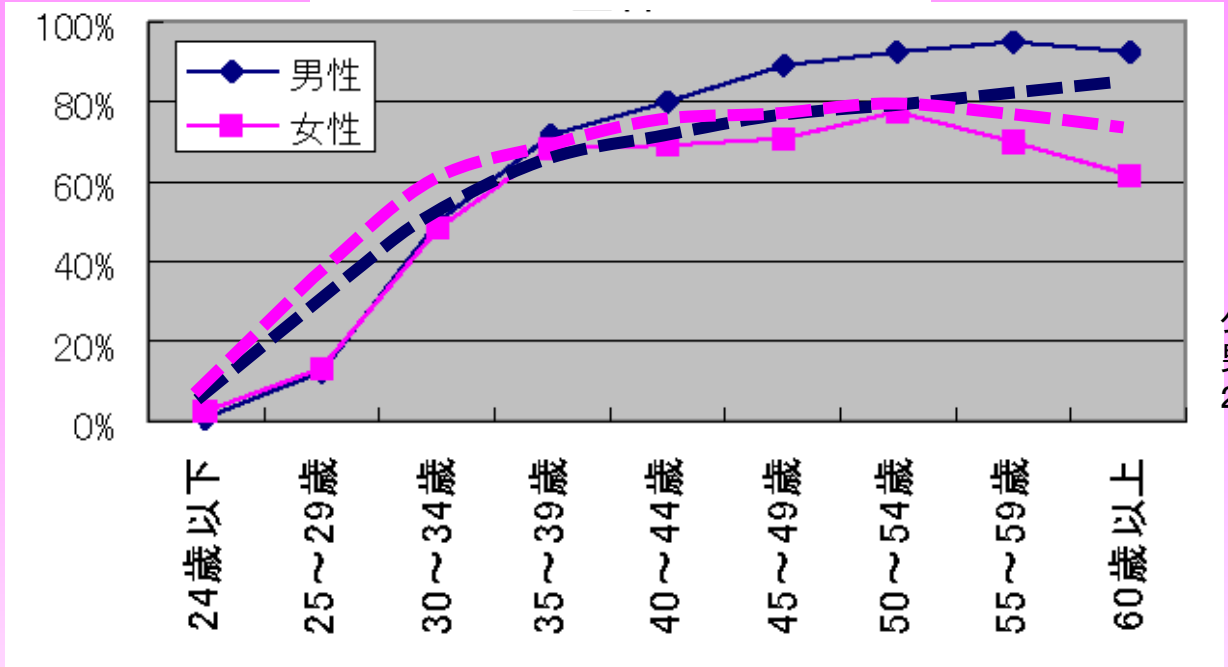
＜ポスドク制度の問題点＞



男女共同参画学協会連絡会（2008）
文部科学省
2007年「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」

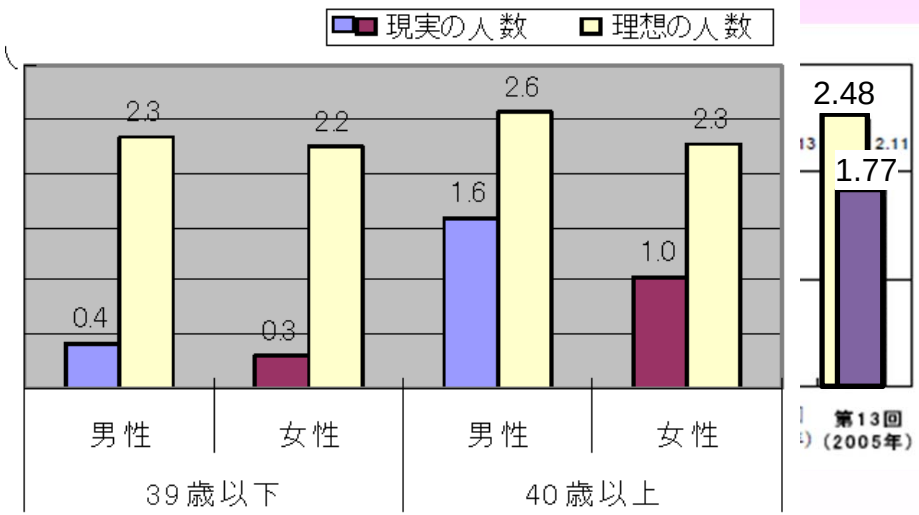
＜年代別有配偶者の割合＞

男女共同参画学協会連絡会（2008）
文部科学省
2007年「科学技術系専門職における
男女共同参画実態の大規模調査」



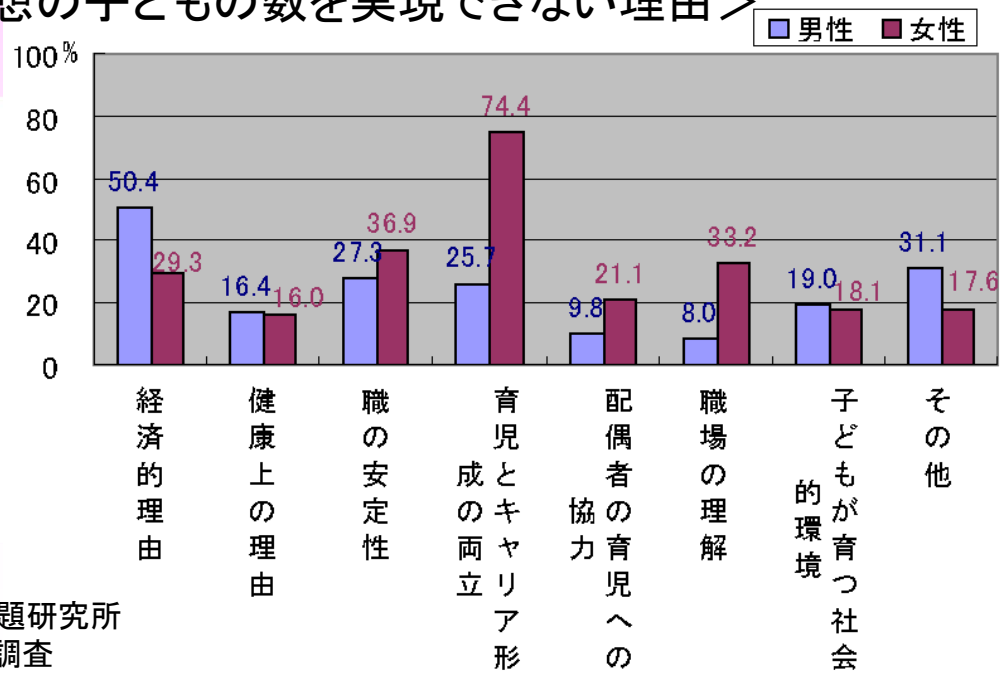
公益財団法人せんだい
男女共同参画財団
2005年国勢調査より

＜子供の数の理想と現実＞

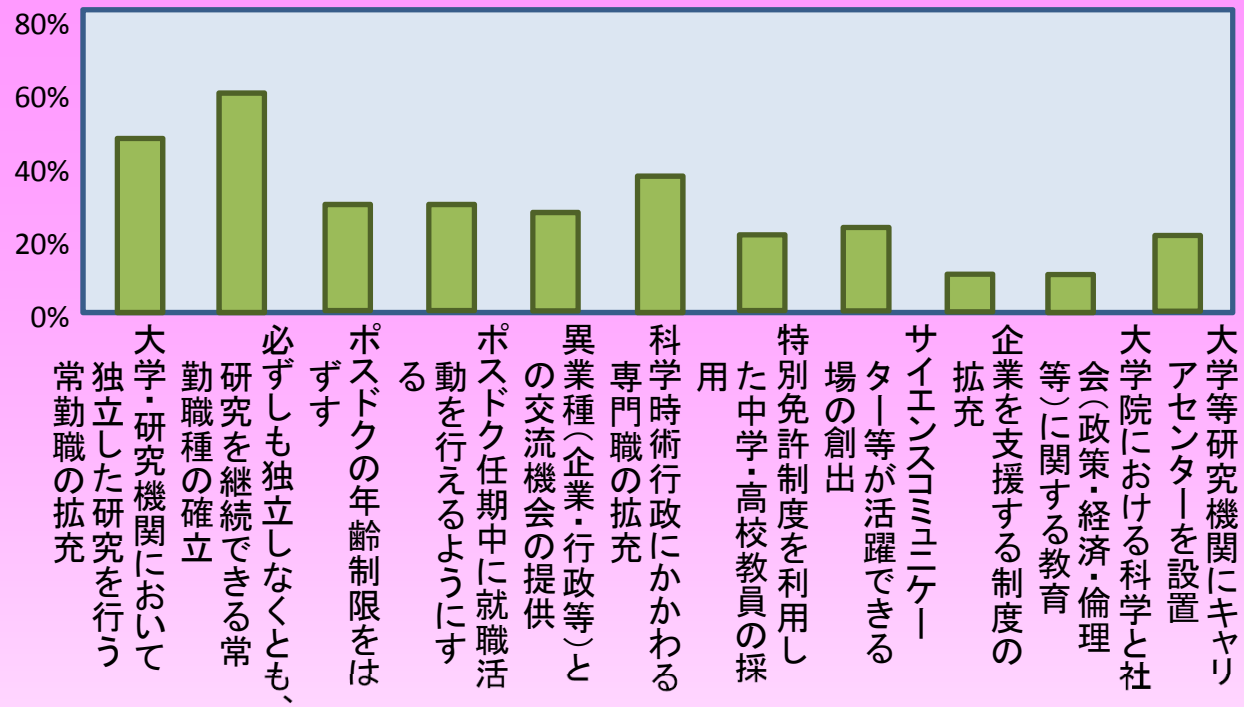


国立社会保障・人口問題研究所
第13回出生動向基本調査

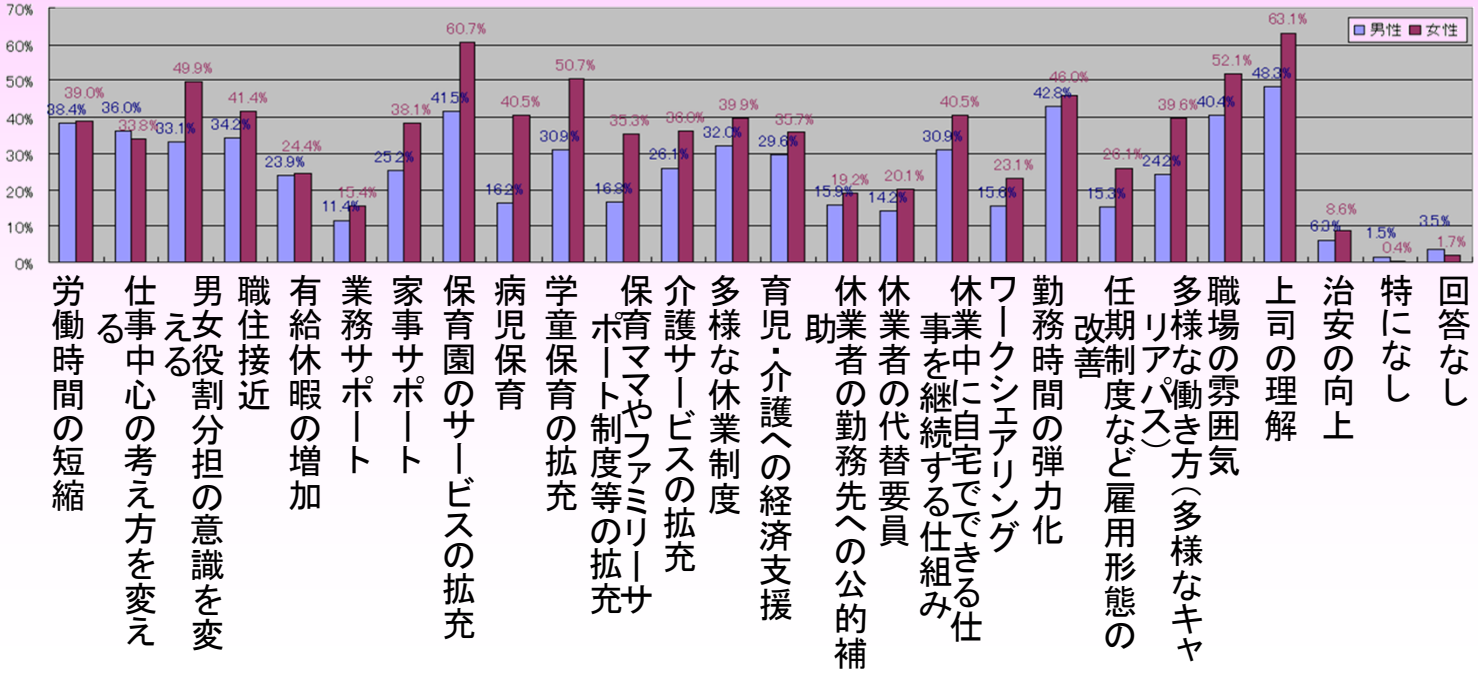
＜理想の子どもの数を実現できない理由＞



＜ポスドク後の
キャリアパス確保に
必要なこと＞



＜仕事と家庭
の両立に
必要なこと＞



男女共同参画学協会連絡会（2008）
文部科学省
2007年「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」

まとめ

- ポスドク問題は、広い年代で深刻にとらえられており、研究組織の活性化等、利点も少なからずあるものの、その後のポストの少なさから、将来設計を立てづらく、晩婚化・少子化を招いている。

- 解決するための多数意見は、常勤職の拡充。

- 子育てとの両立に関しては、上司の理解・職場の雰囲気が大切との意見が多数。

以上をまとめると、ポスドク問題は、広い年代で深刻にとらえられており、研究組織の活性化等、利点も少なからずあるものの、その後のポストの少なさから、将来設計を立てづらく、晩婚化・少子化を招いていると言えそうです。

解決するための多数意見は、やはり常勤職の拡充ですが、現実的な提案として、自ら研究をやめたいと思うまで、任期をつないでいけるように、すべての職の年齢制限を撤廃する。研究費をなるべく、人件費に回し、任期付研究員の待遇を向上させるというのはいかがでしょうか。また、子育てとの両立に関しては、上司の理解・職場の雰囲気が大切との意見が多数を占めておりましたので、ここにご出席の皆様の、少し暖かい目で見ていただくと言うようなご協力で、改善に向かうと言うことだと思います。

最後に、私の個人的な体験にも触れるようにとのお達しを受けていますので、触れておきます。今、私には、小学生の子供が二人います。歳が分かってしまうので、あまり言いたくないのですが、一人は、学生時代に産んだ子、もう一人は、学位をとってから産んだ子です。すべて、あらかじめ知っていたわけではなく、偶然の出来事ですが、学生時代に研究科でできた旧姓使用制度や学術振興会特別研究員の出産育児に伴う中断制度ができた直後に利用させていただきました。また、学術振興会のRPDの一期生でもあります。学生時代、自分の周りには家庭の匂いのする方がほとんどいませんでした。学会へ来ても、女性研究員は非常に少なかったです。そのために、こうすべきとの先入観もなく、知らぬが仏、自分の価値観で自由に（勝手に）進路を選択してこられたのかもしれません。逆に、子育てがこんなにも時間と体力を吸いとられるものだと知っていたら、また、引っ越しを伴う異動のために、家族に寂しい思いをさせる可能性のあることを知っていたら、もっと考えていたかもしれません、いえ、考えていたでしょう。とはいえ、今のところは、後悔しているわけでもなく、これでよかったと思っています。それを踏まえて、学会に希望することは・・・と考えたのですが、特に思いつかず、今まで通り、温かい目で見ていただくことくらいかなと思います。

それから、私は、若い方々のロールモデルには、全くなれていませんが、個人的にお話ししたい方がいれば、いつでも、話しかけてください。